

精神疾患合併妊婦の育児不良に関するリスク因子の検討 に関する研究に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年11月9日～2023年12月31日

〔研究課題〕 精神疾患合併妊婦の育児不良に関するリスク因子の検討

〔研究目的〕

精神疾患を呈する患者は年々増加しており、精神疾患合併妊娠症例も増加傾向にあります。そのため、精神疾患合併妊娠症例を集積し、その傾向を解析することは大変重要なことだと考えています。しかしこれに関連する過去の文献を調査すると、産婦人科医は主に妊娠期・分娩期・産褥期までの関与にとどまっており、その後の育児期については主に小児科が関与するため、産婦人科医からの精神疾患合併妊娠に関する報告は、主に分娩期の予後不良因子の検討に限定されています。つまり、分娩後1か月以上を過ぎた出生児の育児状況に関する報告はまったく報告がありません。

このため、母児分離、育児不良など児の長期予後が、妊娠中の精神疾患の悪化等との関連があることを見いだせば、産婦人科医が妊娠中の情報をもとに、これらの症例を集積して解析することにより早期かつ簡便な分娩後の育児不良のリスク因子を抽出することを目的としています。

〔研究意義〕

この早期かつ簡便な分娩後の育児不良のリスク因子を抽出することにより、ソーシャルワーカー・行政による出生前からの積極的な介入や、小児科医も含めた出産早期からの長期的な育児フォローの機会が増え、育児不良の改善に寄与する可能性につながることを期待しています。

〔対象・研究方法〕

2015-2019年の5年間に当院で分娩し、出産後の児発育がフォローされている精神疾患合併妊娠60例を対象とします。観察項目・調査項目・検査項目は以下の通りです。

年齢、経妊産回数、妊娠週数、非妊娠時のBMI、向精神薬の常用の有無、喫煙の有無について、当院の診療録から情報を抽出する。また精神疾患の診断年齢、妊娠経過（産科合併症、ソーシャルワーカーの介入の有無、介入時期）、分娩経過（分娩週数、分娩様式、出血量）、児の短期予後（出生時体重、アプガールスコア、臍帯動脈血pH）、児の長期予後（児の育児不良）とします。なお、産科合併症は妊娠糖尿病、妊娠高血圧症、胎児発育不良、切迫早産の有無を調査します。対象の症例での妊娠中の精神疾患の病状も合わせて検討いたします。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：馬場 聡 職名 帝京大学ちば総合医療センター産婦人科・助教
所属：帝京大学ちば総合医療センター
住所：市原市姉崎 3426-3 TEL：0436-62-1211（代表）〔内線 5108 〕